

看護教員に対する支援の必要性についての考察
－新人看護教員の受け入れ体制の現状から－

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
対人援助学領域
人間形成・臨床教育クラスター
内田 洋子

超高齢化社会への対応として、さらなる看護師数の増員や質の向上が求められ、2025年までに看護師を多く育成することが国の政策として掲げられている。このような現状において、看護する人を育てるためには看護基礎教育が最も重要な基盤となり、これを担うのが看護教員である。しかし、自らも看護師であり、教育者でもあるという特殊な職務である故か、離職者が年々増加傾向にある。本研究は、新人看護教員の離職を防ぐための支援の必要性についてアンケート調査を実施し、KJ法を用いて検討したものである。その結果、新人看護教員は精神的な支援を主に必要としているのに対し、管理職の看護教員は新人看護教員の教育のためのシステムの構築が必要であると考えていることがわかった。

また、看護師の養成機関としては看護専門学校と看護大学などがあり、そのカリキュラムが違うといった特色がある。その中で、看護教員としてどんなことに課題を感じているのか、どのようにその課題に対処しているのかを明確にすることで、それぞれの機関に適した支援の方法が模索できるのではないかと考えた。さらにアンケート調査に追加してインタビュー調査で精査した結果、新人看護教員への支援だけでなく、管理職の看護教員にも支援が必要であるということが示唆された。

キーワード：看護教員，支援の必要性